

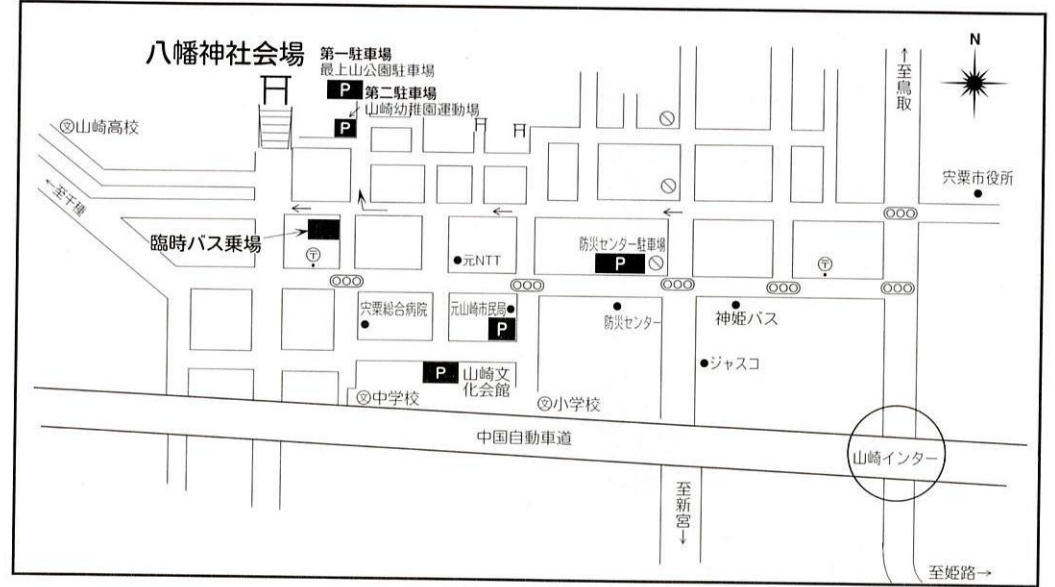
第十九回

薪能



# 山崎八幡神社奉納

## 《会場略図》



### 姫路行き臨時貸切バス 運行のお知らせ

薪能終了後、午後8:45発 林田経由姫路駅(南口)行き貸し切りバスを本家門前屋南駐車場よりお一人1,000円で運行いたします。ご利用の方は、当日会場受付でお申し込み下さい。(定員45名打切)

(なお、雨天により会場が文化会館となったときは、文化会館前より発車します)

と き 平成27年9月26日(土) 【小雨決行】

と ころ 宍粟市山崎町 山崎八幡神社 能舞台  
(台風等の不測の場合は山崎文化会館)

第 一 部 宍粟市謡曲同好会 午後1時30分始

第 二 部 薪能奉納 午後5時00分始

主 催 山崎八幡神社薪能奉賛会

後 援 宍粟市・宍粟市山崎文化協会・宍粟市教育委員会・神戸新聞社・宍粟市商工会・しろう観光協会・龍野ロータリークラブ・山崎ライオンズクラブ・宍粟市医師会有志・宍粟市歯科医師会有志・新潮会有志・昭和会有志・平成会有志

協 賛 宍粟市謡曲同好会

**入場無料**

## 山崎八幡神社薪能奉賛会

事務局 宍粟市山崎町山崎386

(神戸新聞山崎販売所 三谷新聞舗内)

TEL (0790) 62-2266

## 第十九回 山崎薪能の開催にあたって

おかげさまで、第十九回山崎八幡神社奉納薪能がここに恙なく開催できますことを大変有り難く存じあげますと共に、宍粟市内外の企業をはじめとする篤志の皆様へ感謝申し上げます。催行に関わる関係者の熱意とご努力に深甚なる敬意を表します。

この隔年に催行していただきます山崎八幡神社の薪能は、今や宍粟市のみならず県下の各地から高い評価を得ており、「今年は薪能はありますか？」とのお問い合わせも沢山いただくほど、宍粟の文化の象徴として広く認知されております。

今回もこれまでの薪能を支えていただきました「重要無形文化財総合指定保持者」の先生方により、能楽「清経」狂言「萩大名」能楽「羅生門」が上演されます。ことに杉浦豊彦・江崎欽次朗両先生には、それぞれ親子二代・三代に演能を戴きますのでどうぞお楽しみ下さい。

又、第一部の宍粟謡曲同好会の皆様による謡曲・仕舞の披露も日頃の研鑽の成果ですので、ご披見いただければ幸甚に存じます。

秋の夕べ、お誘い合わせの上山崎八幡神社能舞台にお運び戴き、しばし幽玄の世界をお楽しみ戴きますことを祈念申し上げます。御挨拶いたします。



山崎八幡神社薪能奉賛会

会長 安井克典

第一部 穴栗謡曲同好会番組

(午后一時三十分始)

一、小謡・波賀翠謡会

鶴 亀

高所 耕三

二、連吟・波賀翠謡会

小 督

駒の段  
サシより

西中登美子  
中田 勇  
松本 繁信  
清水 康博

三、素謡・秋田泉謡会

菊慈童

シテ 秋武 春生  
ワキ 大前 弘司  
中山 昌子  
篠原 宗平  
大前 強

四、仕舞・鶴崎観和会

賀 茂

春名 芳子

松 虫

宗接久美子

班 女舞アト

永井由美子 鶴崎 和美

卷 絹

山國 重代

融

田中 洋子

五、素謡・山崎篠謡会

橋辨慶

シテ 上田 隆雄 原 忠雄  
トモ 上田 博子 山崎さよ子  
子方 原 みち代 鳥越 茂

六、素謡・山崎集杉会

天 鼓

下村 弥 小泉 啓展 村尾 裕  
中谷 裕子 塚田 清一  
吉川 宏美 三谷 恭三  
三渡 圭介 吉本 晃 岸本 通哉

八、連調・上田青耀会

菊慈童

大倉 順子  
酒井 悦子

紅葉狩

青野 典子  
垣口美穂子  
西尾 佳子

七、仕舞・上田観正会

屋 島

山口 貴也

第二部 薪能奉納

(午後五時始め)

本日の能の解説  
修 能奉行舞台改め

能楽協会神戸支部  
山崎八幡神社宮司  
薪能奉賛会 副会長

笠田昭雄  
根岸敬佑  
鶴崎和美

観世流 能 楽

妻 杉浦悠一朗

平清経 杉浦豊彦

清経 さよ つね

淡津三郎 和田英基

替之型

大鼓 辻 芳昭

小鼓 久田陽春子

笛 斉藤 敦

今村哲朗 伊藤裕貴 笠田 藤谷音彌  
上田拓司 井戸良祐 上田 貴弘  
松野浩行 笠田 昭雄

火入式

挨拶 薪能奉賛会会長  
祝辞 宍粟市長  
祝辞 兵庫県議會議員

安井克典  
福元晶三  
春名哲夫

大蔵流 狂言

萩大名 はぎだいみょう

大名 茂山千三郎

太郎冠者 茂山宗彦

庭の亭主 松本 薫

鈴木 実

観世流 能 楽

鬼神上 田拓司

羅生門 らしやうもん

頼光 江崎太朗

大鼓 辻 雅之 太鼓 上田 悟

綱 江崎欽次郎

小鼓 久田舜一郎 笛 斉藤 敦

平井 江崎正左衛門  
独武者 和田英基  
貞光 松本義昭

能力 鈴木 実

藤谷音彌 上田嶺貴 松野浩行  
上田貴弘 上田頭崇 上田大介  
笠田祐樹 大西礼久  
井戸良祐 今村哲朗

附祝言

閉会の辞

薪能奉賛会副会長

鶴崎和美

(終了予定 午後八時半頃)

※会場内での写真撮影・録画、録音は、堅くお断わりいたします。  
また携帯電話の電源はお切りください。

## お祝いのことば

宍粟市長 福元晶三



秋の気配が次第に濃くなってまいりました。山崎八幡神社新能奉賛会主催「第十九回新能」が盛大に挙行されますこと、心よりお祝い申し上げます。

今回で十九回目を迎えられた「新能」は、地域の伝統文化事業として多くの方に親しまれ初秋の風物詩ともなっております。また、山崎八幡神社への奉納のみならず伝統芸能の継承、更には地域文化の向上にも寄与いただいております。山崎八幡神社新能奉賛会の皆様並びに関係各位のご尽力に改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、「能」は我が国を代表する伝統芸能です。華麗な装束を身に纏ったシテ方やワキ方、独特の音階を奏でる謡と囃子、様々な表情を見せる能面など、それぞれが能特有の世界観を醸し出し、見るものを魅了してくれます。しかし一方では、能を観覧できる機会は少なく、また分かり難いと思われる人も少なくありません。

その意味においては、本日の「新能」はまたとない機会となることでしょう。

新能の魅力の一つは誰でも観覧できる気軽さにあります。初めて見る人も難しく考える必要はありません。感じるままに能の世界を堪能していただければと思います。

夜の帳が下り、薪の灯かりに浮び上がる能舞台で繰り広げられる能演は、まさに幽玄の世界への誘いです。今宵は、その世界にゆっくりと身を委ねたいと思います。

宍粟市は今年で市制施行十年を迎えました。宍粟藩立藩四百年でもあります。節目の年を迎え、先人達が築き上げられた歴史や文化を次世代に継承していく契機とも捉えています。山崎八幡神社新能奉賛会には、この素晴らしい伝統芸能の継承に今後ともご尽力賜り、ともに宍粟市の文化向上に努めてまいりたいと考えますのでよろしくお願い申し上げます。

結びに、山崎八幡神社新能奉賛会の益々のご発展とお集まりの皆様のご健勝とご活躍を祈念してお祝いのご挨拶といたします。

## お祝いのことば

兵庫県議会議員 春名哲夫



第十九回山崎八幡神社新能の盛会を心からお祝い申し上げます。

約六五〇年前の平安時代に生まれた現存世界最古の古典演劇であります新能は、奈良県興福寺から始まり一九五〇年京都平安神宮でそして一九五九年には鎌倉宮で行われ、以後全国に広まったとあります。

それも数百年もの間、台本や演出から装束までほとんど形を変えないで引き継がれてきた事に、驚きとともに敬意を表したいと思っております。

由緒ある山崎八幡神社新能も一九八〇年に第一回が開催されてから三十五年を経て今年第十九回を数えます。これもひとえに、山崎八幡神社新能奉賛会の安井会長をはじめ、ご関係の皆様のおかげで我々地域の伝統文化として定着しております事に、心から感謝を申し上げます。私は今年で三回目の能舞台を拝聴いたします。

シテとは、世阿弥とは、能管とは、など詳しくは知り得ない私であり恐縮ですが、じつと心を落ち着かせ、自身の目に映るものを味わいながら、かがり火の基で何とも言えない幽玄の世界を今年も楽しませていただきます。

今後とも山崎八幡神社新能奉賛会のさらなるご発展と、お集まりの皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 演目解説

## 観世流

### 能楽 清経

平清経の家臣、淡津三郎は、ひそかに一人で九州から都へと戻ってきました。清経は、平家一門と共に、幼帝（安徳天皇）を奉じて都落ちし、西国へと逃れますが、敗戦につぐ敗戦に前途を絶望して、豊前の国（福岡県）柳ヶ浦で、船から身を投げて果ててしまします。三郎は、その形見の黒髪を、清経の妻に届けるために、戻って来たのです。

その話を聞いた妻は、せめて討死するか病死ならともかく、自分を残して自殺するとは、あんまりだと嘆き悲しみます。そして、形見の黒髪も見るに忍びず、涙ながらに床につくと、夢の中に清経の霊が現れ、妻に呼びかけます。妻は嬉しくもあるが、再び生きて姿を見せてくれなかったことを恨みます。

清経は、都を落ちた平家一門が、筑紫での戦にも敗れ、願をかけた宇佐八幡の神からも見放されたいきさつ、敗戦の恐ろしさ、不安、心細さを話して聞かせ、望みを失つて月の美しい夜更け、西海の船上で横笛を吹き、今様を謡って入水した事を物語って、妻を納得させようとしま

続いて修羅道の苦しみを見せませんが、実は入水に際して十念を唱えた功德で成仏しえたと述べ、消えてゆきま



## 大蔵流

### 狂言 萩大名

京都での長い訴訟を終えた遠国「地方」の大名が気晴らしに、太郎冠者に案内させ、清水寺に参詣しがてら茶屋で萩見物をする事にします。ところが茶屋では萩の花を詠み込んだ歌を作る慣例があると聞いて、歌を詠んだことがない大名はいやがりません。そこで冠者は「七重八重九重とこそ思ひしに十重咲き出する萩の花かな」という歌を大名に教え、七、八、九などの数字を扇の骨で示し、「萩の花」では自分のすねはぎ「足のすね」を見

## 観世流

### 能楽 羅生門

丹波の大江山の鬼を退治して帰洛していた源頼光は春雨の降り続く夜、自分の館に渡部綱、平井保昌をはじめ家来一同を呼び寄せ酒宴を催しています。

近頃都に珍しい話はないかの問いに、保昌は九条の羅生門に鬼が出、日暮には人が通わぬ由を話し出します。すると綱は倭が大君のしろ示す国のどこに鬼の住家があるものかと、鬼の実否について保昌と争い争いになります。保昌が羅生門へ行ってみよと云うので、綱は自分で確かめ標を立てて来ようと皆が止める中、席を立てて羅生門に向かいます。激しい雨の中を羅生門に近づくと、さらに雨は激しく降り、乗っていた馬は怯え立ちすくむので、綱は馬から降り羅生門の石段に上って証拠の札を立てて帰ろうとします。そこに鬼神が現れ綱の兜をつかみます。綱は兜の緒を引きちぎり、太刀を振りかざして鬼神と格闘し、その腕を斬り落としたので、鬼神は空遠く逃げ去ります。



演者紹介

シテ方(親世流)

井戸良祐	松野浩行	今村哲朗	大西礼久	杉浦悠一	杉浦豊彦	上田顕貴	上田祐樹	笠田裕介	藤田大音	上田昭雄	笠田昭雄	上田拓司	上田貴弘
重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者
梅若家	林家	大西家	大西家	杉浦家	杉浦家	上田家	上田家	上田家	上田家	上田家	上田家	上田家	上田家

ワキ方 福王流

江崎正左衛門	江崎欽次朗	和田英基	松本義昭
重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者
江崎家	江崎家	江崎家	江崎家

子方

江崎太朗
江崎家

狂言方 大蔵流

茂山千三郎	松本薫	茂山宗彦	鈴木実
重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者
茂山家	茂山家	茂山家	茂山家

囃子方

小鼓方 大倉流

久田舜一郎	久田陽春子
重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者

大鼓方 大倉流

辻芳昭	辻雅之
重要無形文化財総合指定保持者	重要無形文化財総合指定保持者

太鼓方 金春流

上田悟
重要無形文化財総合指定保持者

笛方 森田流

斎藤敦

八幡神社奉納新能の記録

回数	年月日	1	2	3	4	5	6
昭和	55・10・4	羽衣 観世流 上田照也 江崎金治郎	鉢木 観世流 上田照也 江崎金治郎	三井寺 観世流 浦田保利 江崎正左衛門	弱法師 観世流 杉浦元三郎 江崎正左衛門	翁 観世流 面箱松本薫 三番叟茂山千五郎 千才観世清和	菊慈童 観世流 吉井順一 江崎金治郎
演		柿山伏 狂言 茂山千五郎 茂山正義	瓜盗人 狂言 茂山正義 茂山あきら	水掛罨 狂言 茂山あきら 茂山千五郎	昆布売 狂言 茂山忠三郎 伊藤茂	二人袴 狂言 茂山千三郎 松本千五郎 木村正雄	呼声 狂言 茂山千之丞 茂山あきら 丸石やすし
目		土蜘蛛 観世流 杉浦元三郎 江崎康雄	紅葉狩 観世流 杉浦元三郎 江崎康雄	小鍛冶 観世流 大西智久 江崎金治郎	葵上 観世流 大西智久 江崎金治郎	狸々乱 観世流 大西智久 藤井徳三 江崎金治郎	石橋 観世流 上田拓司 藤井徳三 中村彌三郎

7	8	9	10	11	12
3・9・21	5・9・11	7・9・2	9・9・6	11・9・4	13・9・1
経正 観世流 大西智久 指吸雅之助	鶴亀 観世流 井上嘉久 指吸雅之助	吉野天人 観世流 坂口信男 江崎金治郎	安宅 観世流 大西智久 江崎金治郎	高砂 観世流 杉浦豊彦 江崎敬三	巻絹 観世流 笠田昭雄 上田貴弘 和田英基
瓜盗人 狂言 茂山正義 綱谷正美	口真似 狂言 茂山真吾 丸石やすし 木村正雄	蝸牛 狂言 善竹忠重 高井秀規 阿草一徳	素袍落 狂言 茂山千作 茂山七五三 茂山千五郎	萩大名 狂言 茂山千作 茂山千五郎 松本薫	寝音曲 狂言 茂山千作 茂山千五郎
安達原 観世流 藤井徳三 江崎金治郎	土蜘蛛 観世流 藤井徳三 江崎金治郎	野守 観世流 波多野晋 中村彌三郎	岩船 観世流 上田貴弘 江崎敬三	井筒 観世流 大槻文蔵 江崎金治郎	俊寛 観世流 武富康之 上田拓司 大槻文蔵 江崎金治郎



山崎八幡神社能舞台（元禄12年〔1699〕建立）のご紹介



当舞台に於いて旧くは山崎藩主本多公の奉納薪能又、昭和55年より平成25年にかけて奉賛会による新能が18回にわたり開催されました。

300年余の風雪にたえて尚建立時のたたずまいを十分にしのばれる長い歴史をもった由緒ある舞台でしたが、老朽化が著しく、平成19年に大改修工事を施した結果、新装なった舞台は入母屋造り、3間四方の本舞台に後座・地謡座・橋掛りを備え、鏡の間を兼ねた約18坪の楽屋を併設するものです。

18	17	16	15	14	13
25 ・ 9 ・ 28	23 ・ 9 ・ 3	21 ・ 9 ・ 5	19 ・ 9 ・ 1	17 ・ 9 ・ 3	15 ・ 9 ・ 6
咸陽宮 <small>観世流</small> 江崎敬三 上田貴弘	千手 <small>観世流</small> 江崎敬三 大西礼久	杜若 <small>観世流</small> 江崎金治郎 大西礼久	西王母 <small>観世流</small> 江崎金治郎 井上裕久	張良 <small>観世流</small> 江崎敬三 藤井徳三	藤戸 <small>観世流</small> 江崎金治郎 杉浦元三郎
鬼瓦 <small>狂言</small> 井口竜也 茂山茂	寝音曲 <small>狂言</small> 茂山正邦 茂山千五郎	魚説経 <small>狂言</small> 茂山千三郎 茂山千五郎	伯母ヶ酒 <small>狂言</small> 茂山七五三郎 茂山千五郎	貰聾 <small>狂言</small> 茂山千作 茂山千五郎	伯母ヶ酒 <small>狂言</small> 佐々木千吉 茂山千五郎
鞍馬天狗 <small>観世流</small> 江崎金治郎 杉浦豊彦	融 <small>観世流</small> 江崎金治郎 杉浦豊彦	雷電 <small>観世流</small> 江崎敬三 杉浦豊彦	正尊 <small>観世流</small> 江崎敬三 大西智久	船弁慶 <small>観世流</small> 江崎金治郎 杉浦豊彦	殺生石 <small>観世流</small> 是川正彦 杉浦豊彦

祝

薪

能

ご協賛者ご芳名

宍粟市山崎文化協会様	吉本商店様
宍粟市商工会様	伊野操治様
龍野ロータリークラブ様	篠原宗平様
山崎ライオンズクラブ様	塚田清一様
鹿島建設株式会社様	波賀翠謡会様
兵庫県神社庁宍粟支部様	秋田泉謡会様
江崎福王会様	池田掬水会様
姫路薪能奉賛会様	鶴崎観和会様
(株)竹川鉄工所・竹川光郎様	山崎集杉会様
栗山章様	山崎篠謡会様

※八幡神社奉納の第十九回薪能の開催に当りまして、いつもながら格別の御理解、御協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。なお、折角の御厚意にも拘らず、日程等の都合もあり、十分な打合せもできませず、広告記事に不備が多々ある事と存じます。また、編集後に戴いた分が掲載洩れになっていることでもあります。この点悪しからずお許しのほどお願い申し上げます。